

2024 年度学生生活基本調査報告

学生委員会

1. 実施概要

- ・調査目的: 学生の生活状況や要望等を把握し、今後の学生支援サービスの向上や施設・設備面の改善に役立てるために、毎年実施。
- ・実施期間: 2024年10月7日(月)から11月30日(土)まで
※11/30時点での回答率により、12/20まで実施期間を延長。
- ・調査対象者: 全学部・全学年の学生 4,045名
- ・調査方法: 全学年ゼミの授業の中で調査依頼。2024年度から C-learning から Google フォームに回答方法を変更。
- ・回答総数: 2,239名(回答率 55.4%)

参考(過去回答率): 2023年 39.9%、2022年度 50.0%、2021年度 23.4%、2020年度 10.7%

2. 調査回答者人数内訳

学部名	調査対象学生数	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	回答率
法学部	902	126	134	100	100	460	51.0%
経済経営学部	1001	170	176	118	112	576	57.5%
メディア情報学部	655	109	83	57	66	315	48.1%
スポーツ科/現代文化学部	884	129	152	146	89	516	58.4%
心理学部	603	110	96	92	74	372	61.7%
合計	4,045	644	641	513	441	2,239	55.4%

表1 調査回答者の学部別・学年別人数内訳

調査回答者 2,239名の学部別では、法学部 460名、経済経営学部 576名、メディア情報学部 315名、スポーツ科学部 516名、心理学部 372名である。学年別では、1年生 644名、2年生 641名、3年生 513名、4年 441名で、学年が高くなるにつれ、回答率が低くなっている(表1)。なお、過年度生のみ所属の現代文化学部(2名)の回答者は0名であった。

3. 学生生活全般について

(1) 住居形態(現在の住まい)

現在の住まい(図1)では、2024年では「家族と同居」が57%と一番高い割合となっており、次いで「一人暮らし(アパート・マンション)」の28%と続き、2023年度以前と比べ、若干ではあるが家族と同居が減り、一人暮らしの割合が増加した。

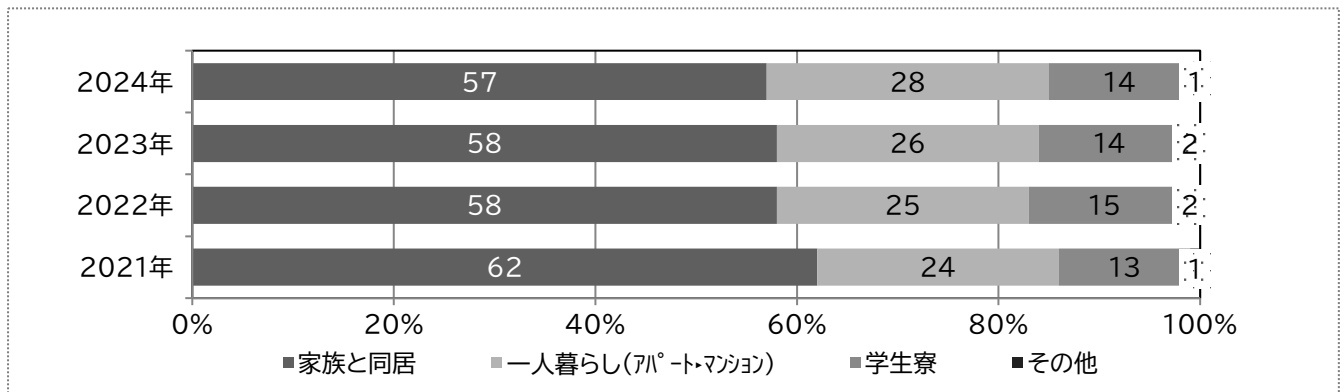


図1 住まい(2021年-2024年)

(2) 通学手段

通学手段（図 2）を見ると、2024 年のスクールバスを利用している学生は全体の 69%（飯能駅 1%、東飯能駅 16%、元加治駅 45%、金子駅 7%）と、2023 年の 69%と同じ結果であった（飯能駅 1%、東飯能駅 14%、元加治駅 40%、金子駅 14%）。

なお、2023 年度の秋学期より、飯能便運行ルート上にある JR 八高線高架下の阿須ガード拡幅工事による通行止めに伴い、スクールバスの運行体制を大きく見直し、飯能便の大幅減便とともに、東飯能便の運行を新たにスタートしたが、前年度と比べ東飯能便利用者が 16%、元加治便利用者が 45%に増加し、金子便利用者が減少する結果となっている。

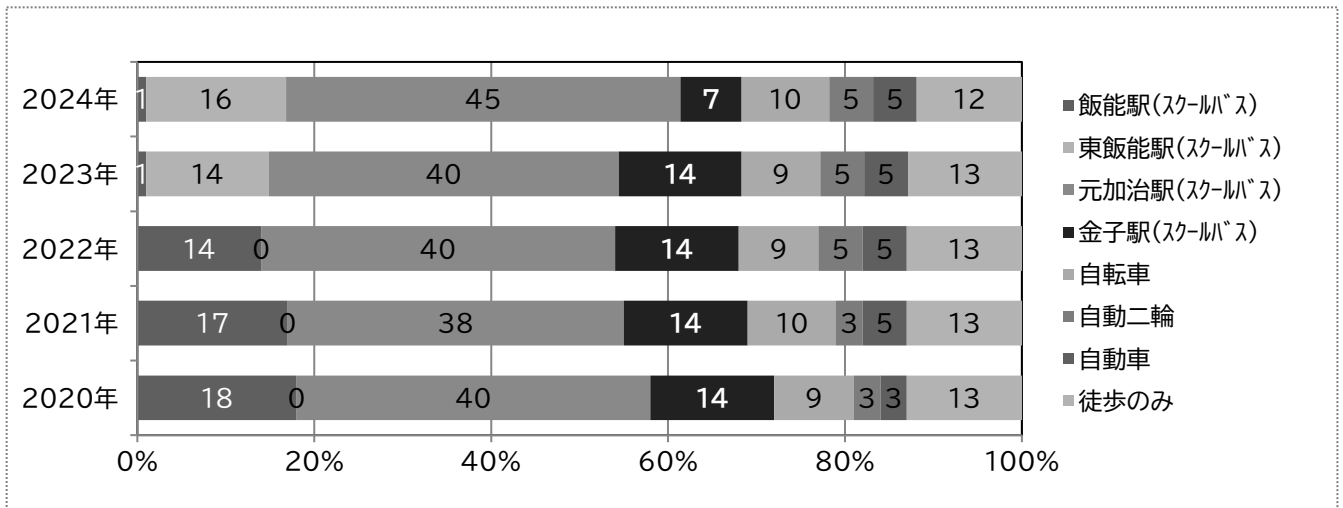


図 2 通学手段（2020-2024 年）

(3) アルバイト

① アルバイト時間

週平均アルバイト時間（図 3）では、コロナ期間は、アルバイト先の営業自粛や時短営業、休業などの影響もあり、アルバイトを「していない」と回答した割合が高かったが（2020 年で 43%、2021 年で 36%）、通常の学生生活が戻り、2022 年は 28%、2023 年は 24%、2024 年度は 21%と、年々減少傾向にある。このことから、学生にとってもアルバイトをしやすい環境が戻り、アルバイトに費やす時間も長時間に移行している。

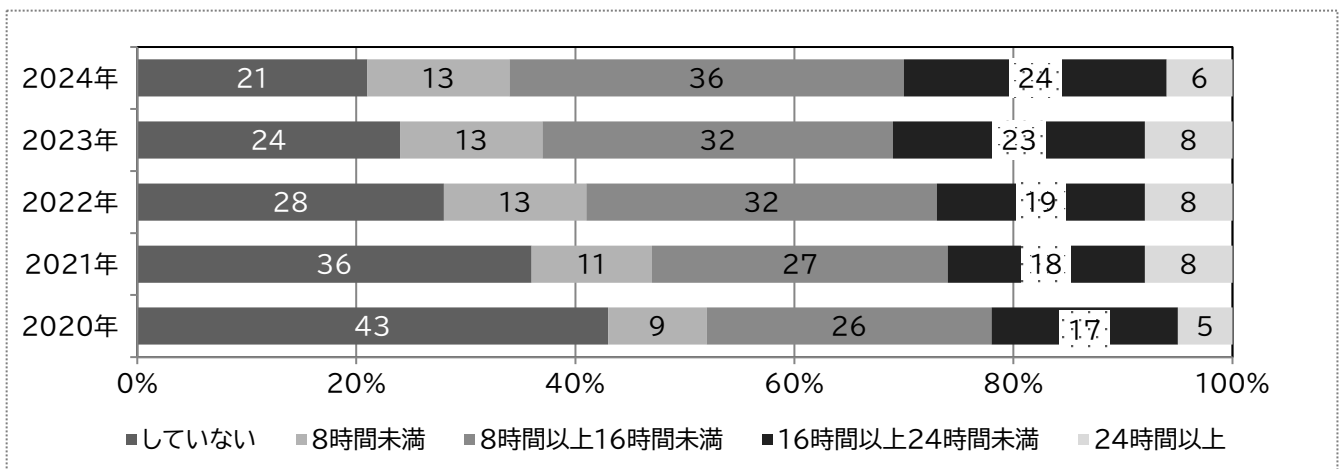


図 3 長期休業期間以外の週平均アルバイト時間（2020-2024 年）

学部別で週平均アルバイト時間（図 4）を見ると、アルバイトを「していない」と回答した割合が最も高かったのはメディア情報学部の 26%であった。次いで、法学部・スポーツ科学部の 21%、経済経営学部の 20%となっており、一番低かったのは、心理学部の 19%であった。

一方、週平均のアルバイト時間数で8時間以上（「8時間以上16時間未満」、「16時間以上24時間未満」、「24時間以上」）と回答した割合が最も高かったのは、心理学部の69%であった。次いで、経済経営学部の68%、スポーツ科学部の67%、法学部の66%と続き、割合が一番低かったのは、メディア情報学部の60%であった。2023年度と同様に、メディア情報学部はアルバイトを「していない」学生の割合が高く、アルバイトに長時間費やさない学生が多い傾向にある。

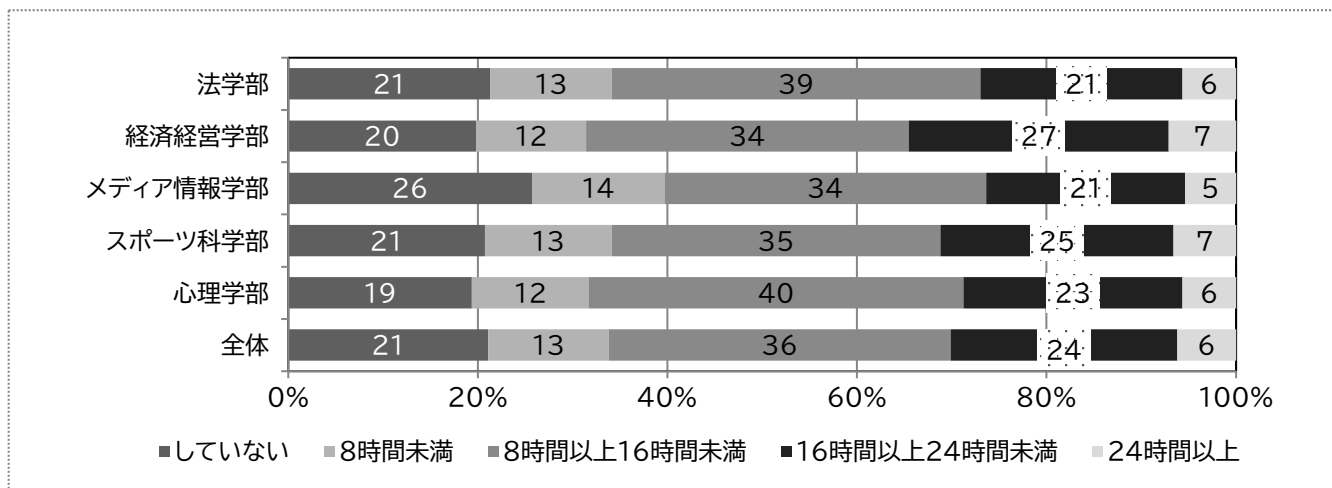


図4 長期休業期間以外の週平均アルバイト時間（2024年・学部別）

②平日のアルバイト時間帯

平日のアルバイトの主な時間帯（図5-1）では、2024年は2023年までと質問項目を一部変更している。2024年は「平日のアルバイトはしていない」「アルバイトはしていない」を除くと、「夕方以降深夜0時前まで」と回答した割合が最も高く全体の47%であった。次いで「日中」が12%、「深夜0時以降早朝まで」が5%という結果となっている。

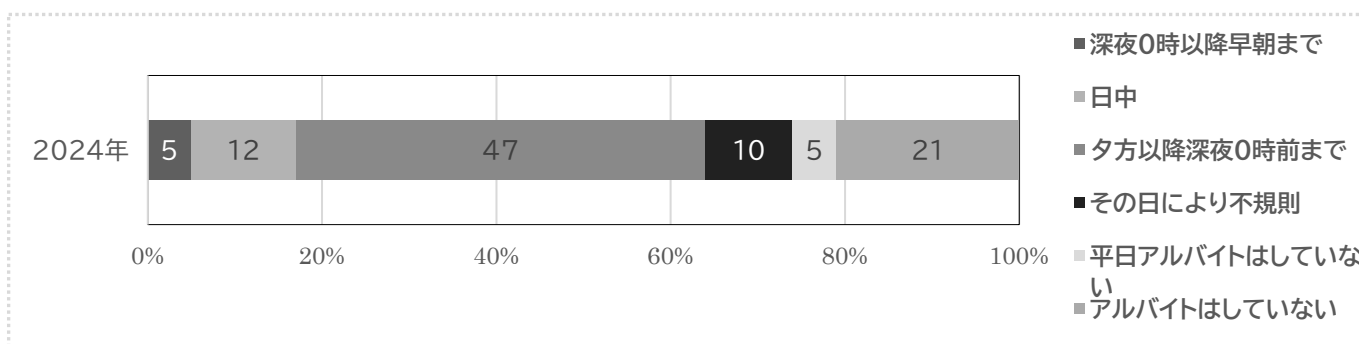


図5-1 平日のアルバイトの主な時間帯（全学部、2024年）

（参考）2023年までは「夕方以降0時過ぎまで」の選択肢あり

2023年は「アルバイトはしていない」人を除くと、「夕方以降0時前まで」と回答した割合が最も高く全体の40%であった。また、「夕方以降0時過ぎまで」の割合は、コロナ禍の影響があった2020年は6%、2021年は5%と少ない割合であったが、2022年は11%と増加し、2023年も10%と同様な割合の結果となっている（次ページ（図5-2）参照）。

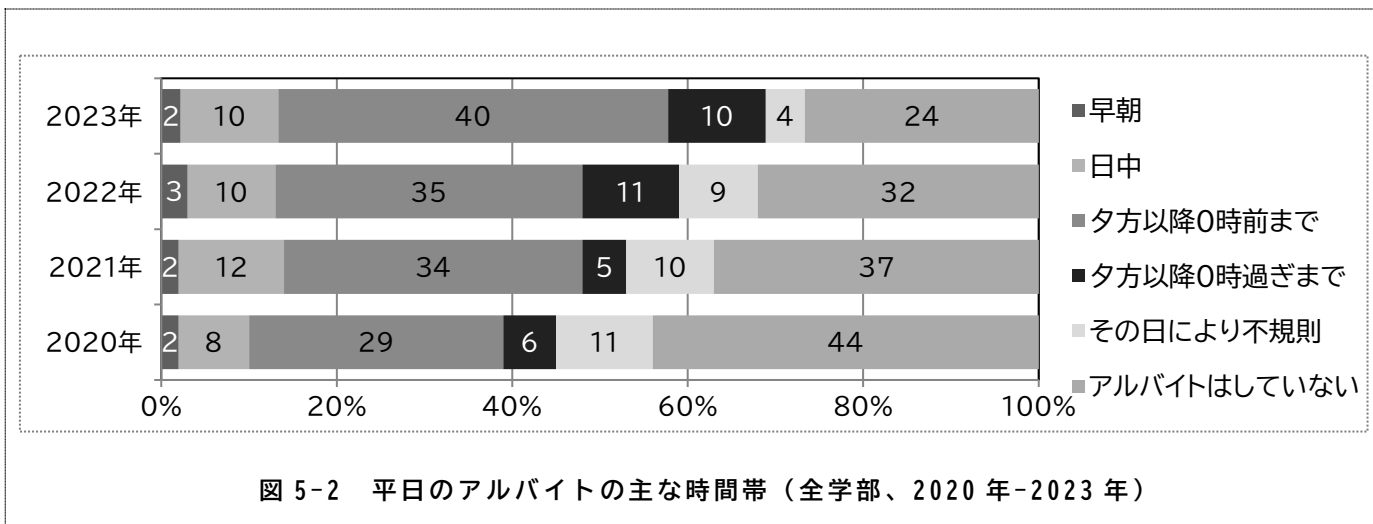


図 5-2 平日のアルバイトの主な時間帯 (全学部、2020年-2023年)

③アルバイトの収入金額

アルバイト収入金額(図 6)では、2024 年は「アルバイトはしていない」人を除くと、「5 万円～10 万円未満」と回答した割合が最も高く 47%で、次いで「3 万円～5 万円未満」が 17%と続く。

コロナ禍の 2020 年は「アルバイトはしていない」の割合が 42%だったが 2024 年は 21%と半減している。収入金額の割合の傾向としては、「5 万円～10 万円未満」が 2020 年の 32%から 2024 年の 47%と年々増加傾向にある。このことから、コロナの収束によりアルバイトへの影響が減少し、学生にとって本来必要と思われるアルバイト収入が得られる環境が戻ったことがわかる結果となった。

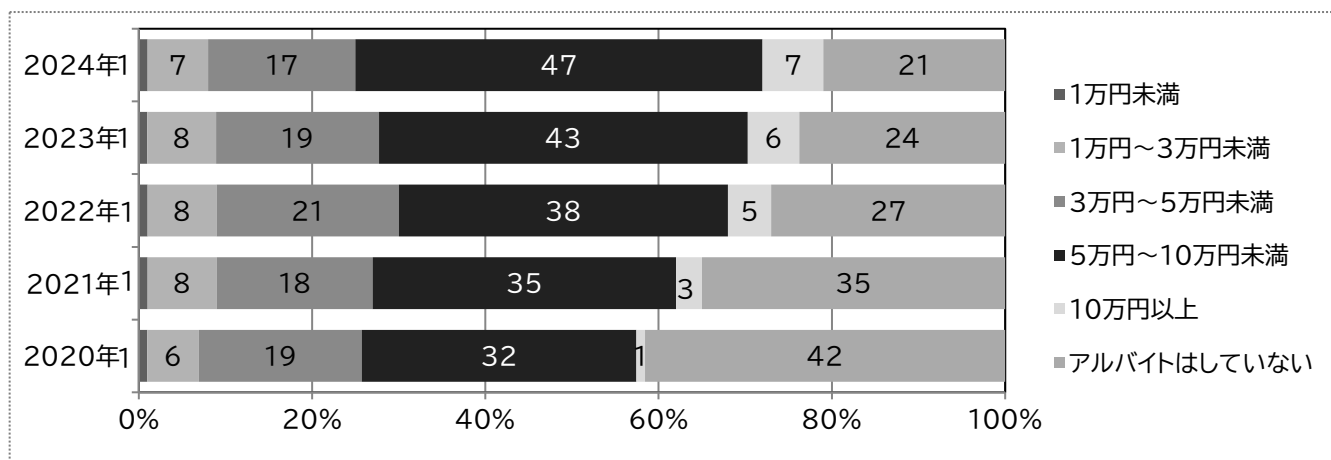


図 6 アルバイト収入金額 (全学部、2020年-2024年)

④アルバイト収入の使途

アルバイト収入の使途(図 7-1)では、2024 年は 2023 年までと質問項目を一部変更している。アルバイトをしている学生における収入の使途(図 7-1)では、2024 年は「飲食費」の割合が最も高く、次いで「被服費」となっている。2021 年から 2023 年までの間は「預貯金」の割合が減少傾向にあったが、2024 年は使途の中で 3 番目に高い割合となっている。スマートフォンや Wi-Fi などに係る「電話・通信料金」よりも「預貯金」が 2.5 倍多い結果となっている。

なお、「預貯金」を選択した学生のうち、「家族と同居」が 66%、「アパート・マンションで一人暮らし」が 24%、「学生寮」が 10%であるが、実家、一人暮らしに関わらず、アルバイト収入の一部を預貯金に回すことで、学生生活のイベントや旅行、目標達成に係る費用、また不測の事態の急な出費に備えていることが推測できる。

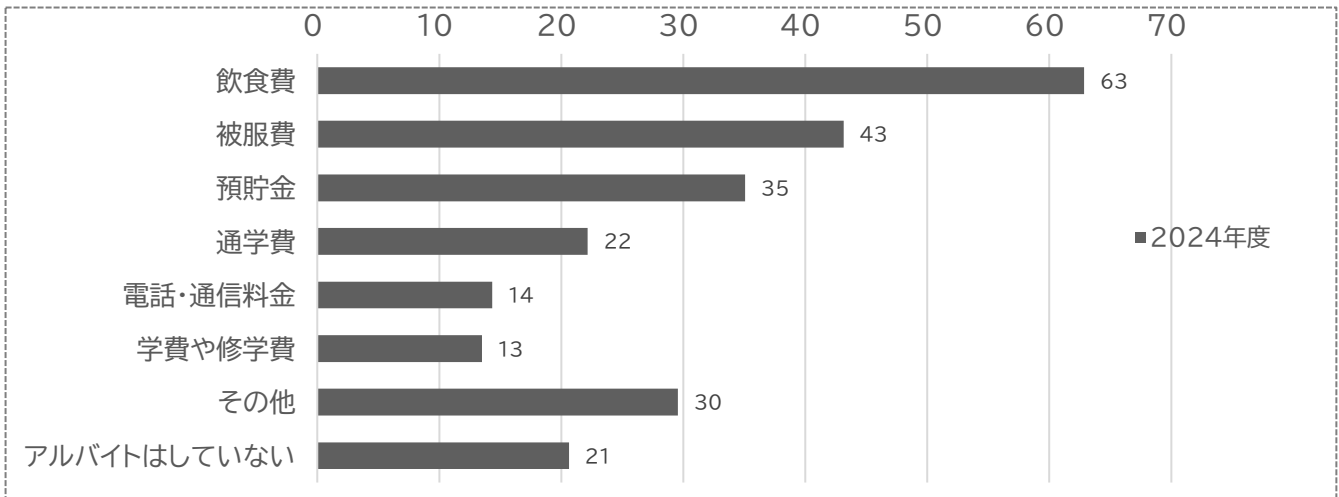


図 7-1 アルバイト収入の用途（複数回答、単位：％，2024 年）

（参考）2023 年までは「趣味・娯楽費」「学費や生活費」の選択肢あり

2023 年の用途割合でも「趣味・娯楽」「飲食費」「服飾費」などの割合が高く、2022 年と比較しても、割合が増加している結果となった。一方、「預貯金」や「通学費」の割合は年々減少していることから、コロナによる抑制された生活から解放され、より自分の生活を豊かにするためにアルバイト収入を使うことが主目的になっているとも言える結果となっている。

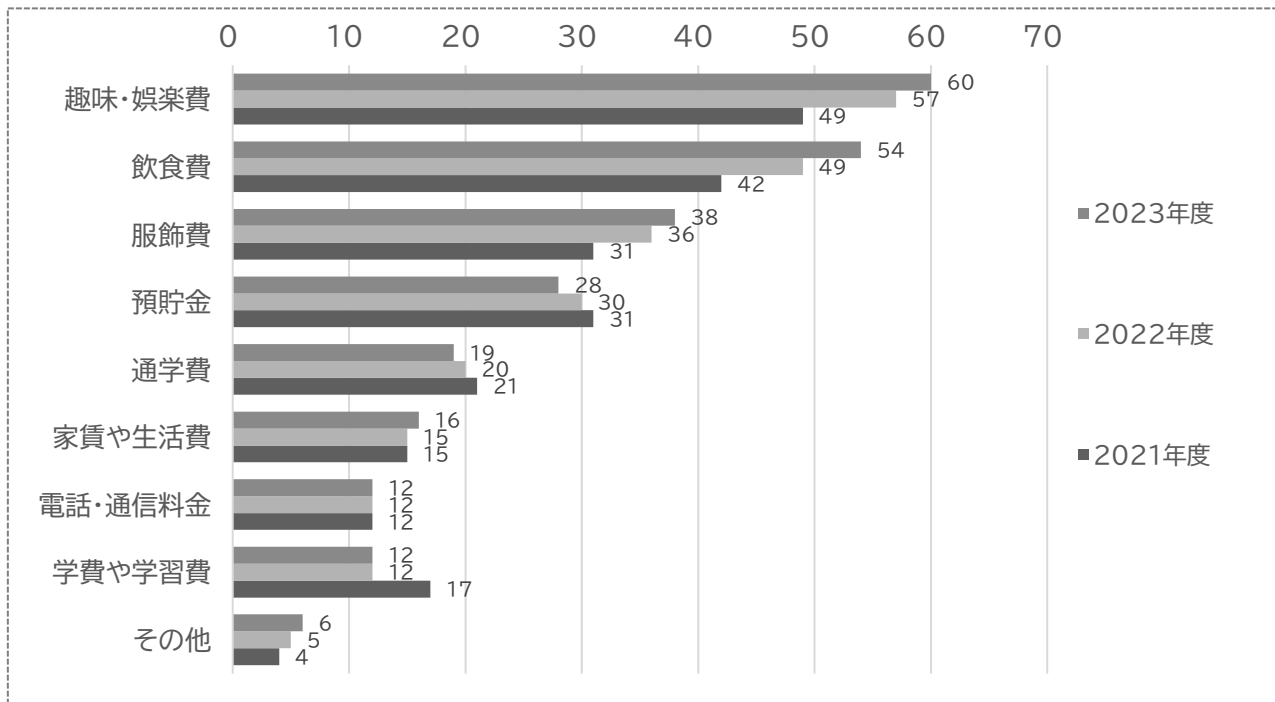


図 7-2 アルバイト収入の用途（複数回答、単位：％，2022-2024 年）

(4) 学修について

① 学修時間（週平均）

授業以外での週平均学修時間（図 8）をみると、2024 年の学修時間では全学部で「0 分」が 14%、「30 分未満」が 17%、「30 分～1 時間」が 22%と、1 時間以内の割合が全体の 53%となっており、2023 年の 45%と比較すると 8%増加している。

学修時間「0分」をみると、2020年、2021年は「オンライン授業での課題取組などに要した時間が増えた」ことが学修時間増加の要因として挙げられていたが、2022年以降、学修環境や学生生活がコロナ禍前に戻るなかでも、2019年の21%までにはならず、学修時間を確保しようとする最近の学生の傾向がうかがえる結果となった。

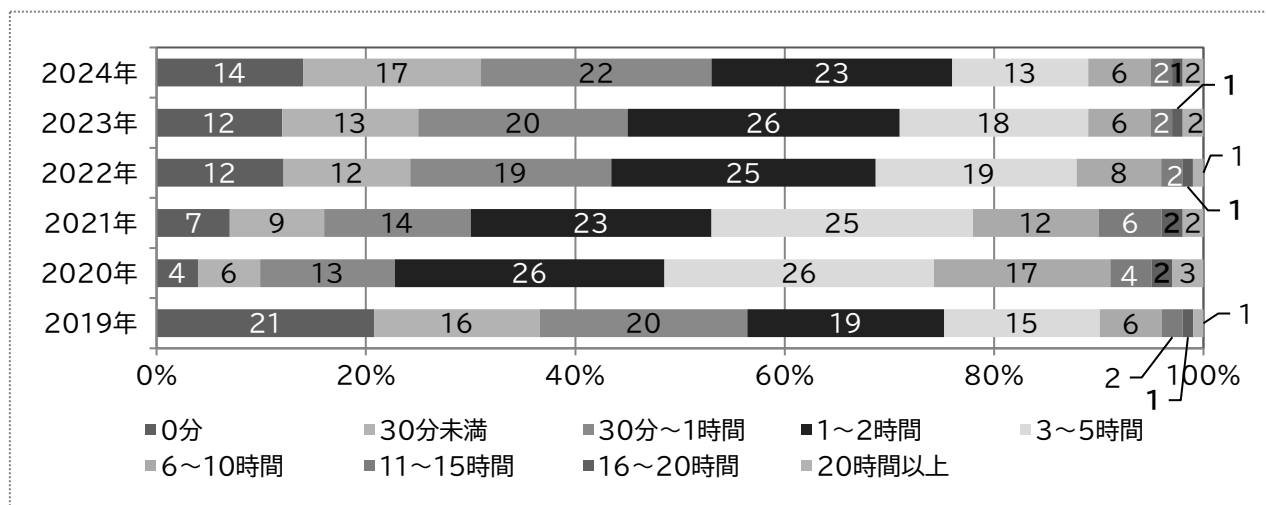


図8 授業以外での週平均学修時間（2019-2024年）

2024年の学部別学修時間（図9）を見ると、いわゆる学修に割く時間が少ない割合が多いともいえる学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分~1時間未満」）が最も高かったのがスポーツ科学部の70%（2023年62%）、次いで経済経営学部の55%、法学部の53%、メディア情報学部の44%と続き、心理学部が40%と一番低い割合となっている。また、3時間以上（「3~5時間」「6~10時間」「11~15時間」「16~20時間」「20時間以上」）の割合では、心理学部が33%と一番高く、次いでメディア情報学部の28%、法学部の24%、経済経営学部の22%と続き、スポーツ科学部が15%と一番低い割合となっている。

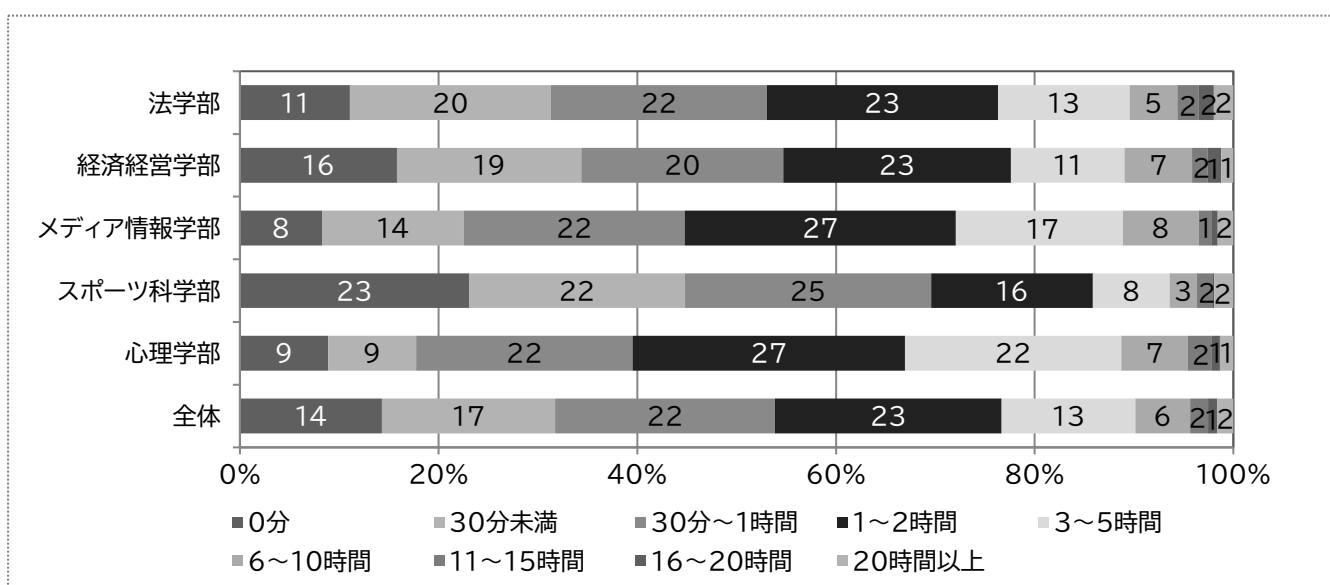


図9 授業以外での週平均学修時間（2024年・学部別）

②熱心に取り組むことができる授業割合

熱心に取り組むことができる授業（図 10）を見ると、2024 年の熱心に取り組むことができる授業割合では、「50%程度」が 32%と一番高い割合となっており、次いで「70%程度」の 27%、「80%以上」の 20%となっており、2023 年とほぼ同じ割合となっている。

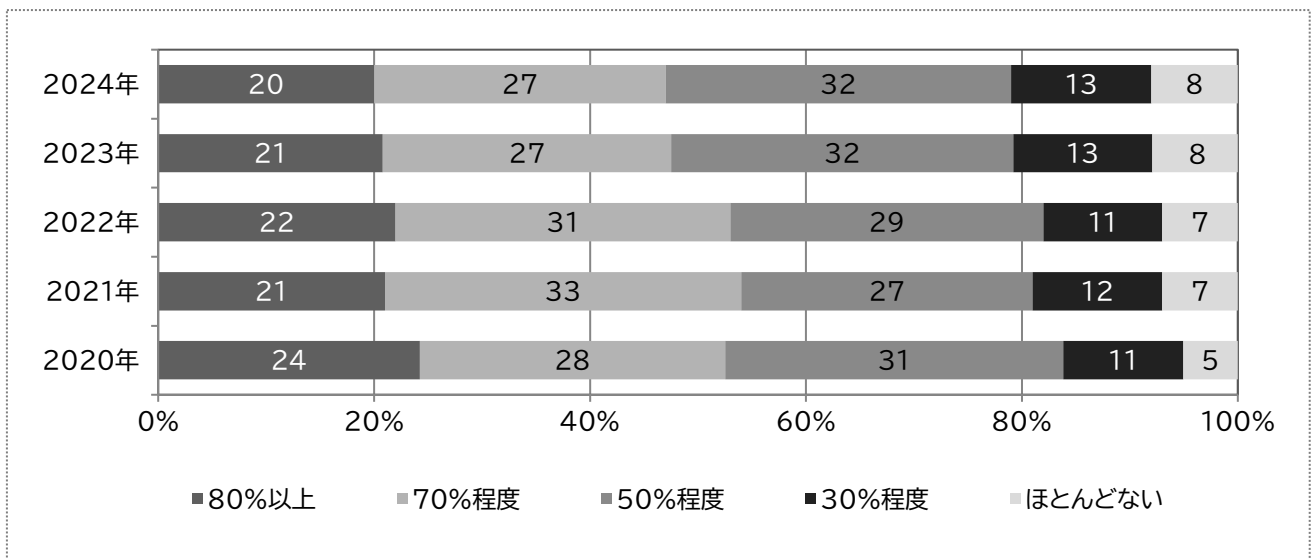


図 10 熱心に取り組むことができる授業（2020 年-2024 年）

熱心に取り組むことができる授業の 2024 年学部別の割合（図 11）を見ると、「80%以上」と回答した割合では、法学部・スポーツ科学部の 22%が一番高く、次いで心理学部の 21%、経済経営学部の 19%、メディア情報学部の 15%となっている。

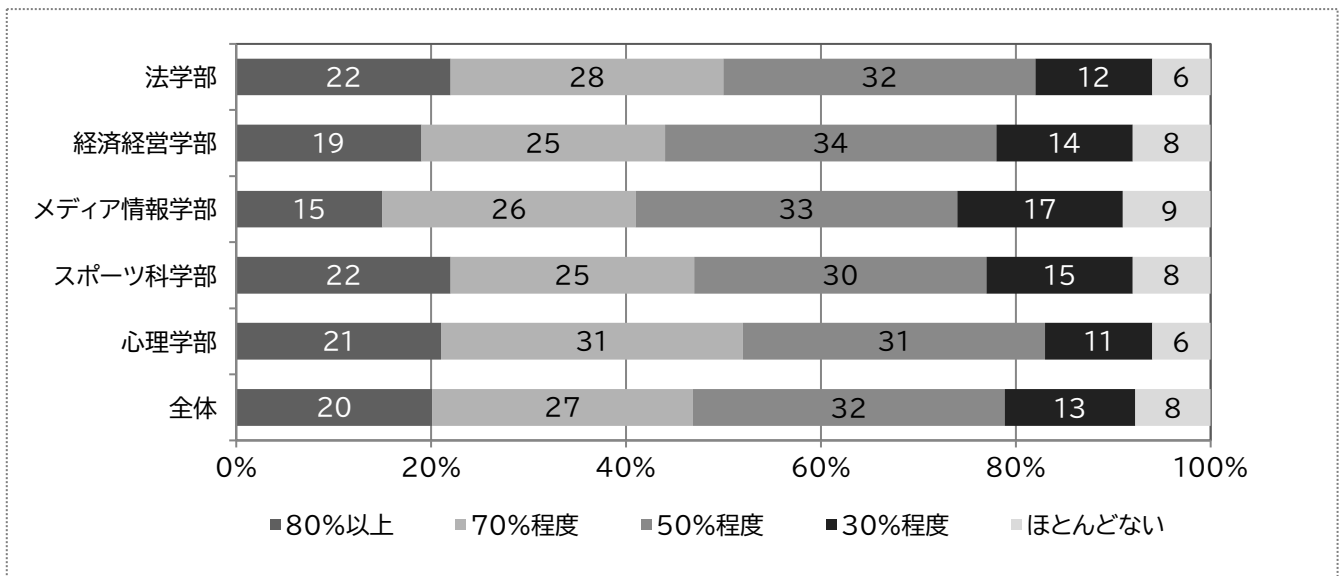


図 11 熱心に取り組むことができる授業割合（2024 年・学部別）

③授業でわからないことや勉強の仕方など教員などに相談しているか

授業でわからないことなどの教員への相談（図 12）では、2024 年は「あまりしていない」と「全くしていない」の割合がそれぞれ 36%となっている。「かなりしている」6%、「まあまあしている」は 22%となっており、「かなりしている」と「まあまあしている」を合わせた 28%は、2023 年と同じ割合となっている。

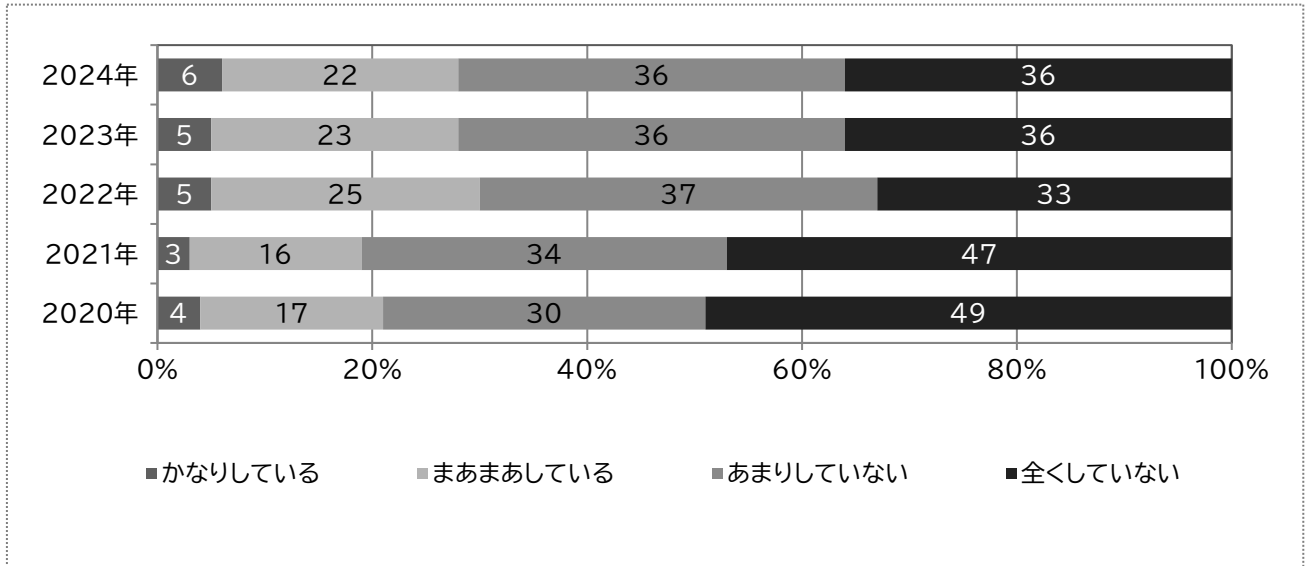


図 12 授業でわからないことや勉強の仕方の教員への相談（2020 年-2024 年）

授業でわからないことなどの教員への相談の割合を学部別（図 13）で見ると、「かなりしている」と「まあまあしている」の合わせた割合では、経済経営学部が 31%と一番高く、一方、スポーツ科学部が 23%と一番低い割合となっている。

スポーツ科学部については、教員への相談割合の少なさと、学修時間の少なさに一定の相関性が見受けられるが、一方、学修時間 3 時間以上の割合（図 9 参照）が一番高かった心理学部が、教員への相談を「全くしていない」割合がスポーツ科学部と同じ割合だった点については、教員とうまくコミュニケーションを図ることへの苦手意識や自己解決していることなどの理由が推測される。

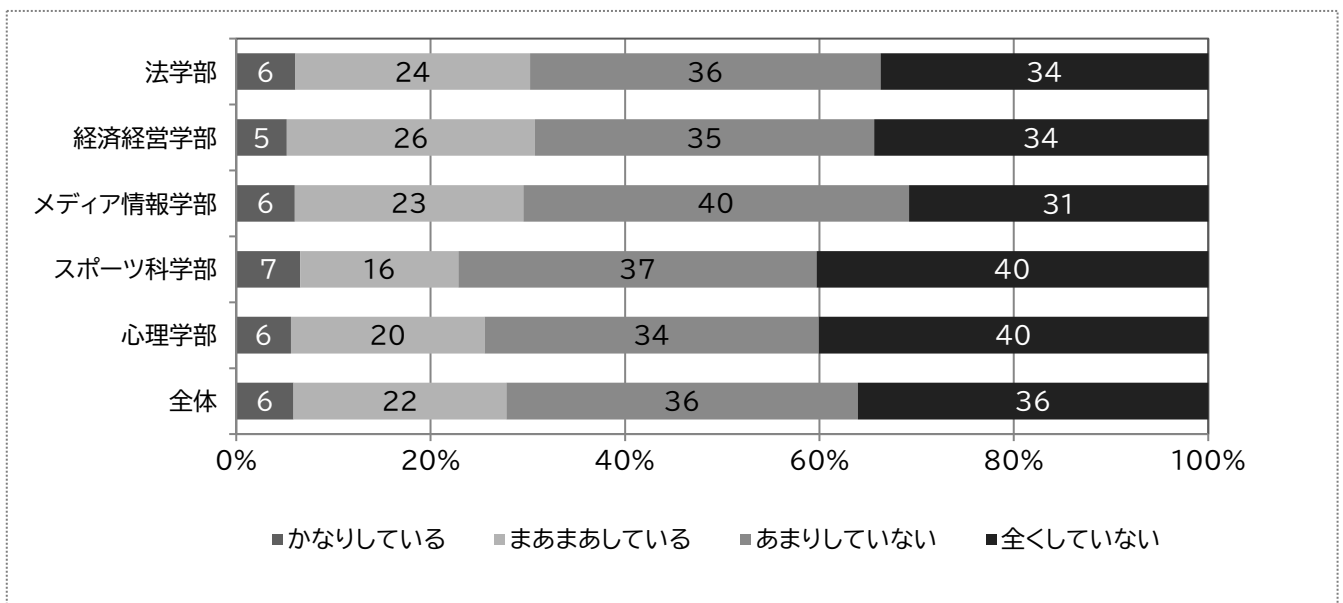


図 13 授業でわからないことや勉強の仕方の教員へ相談（2024 年・学部別）

4. 課外活動について

課外活動として、2024年の運動部（部活動）・サークルの所属有無（図14）を見ると、全体では、「運動部（部活動）」が21%、「サークル」が25%、「所属していない」が54%であった（複数回含む）。

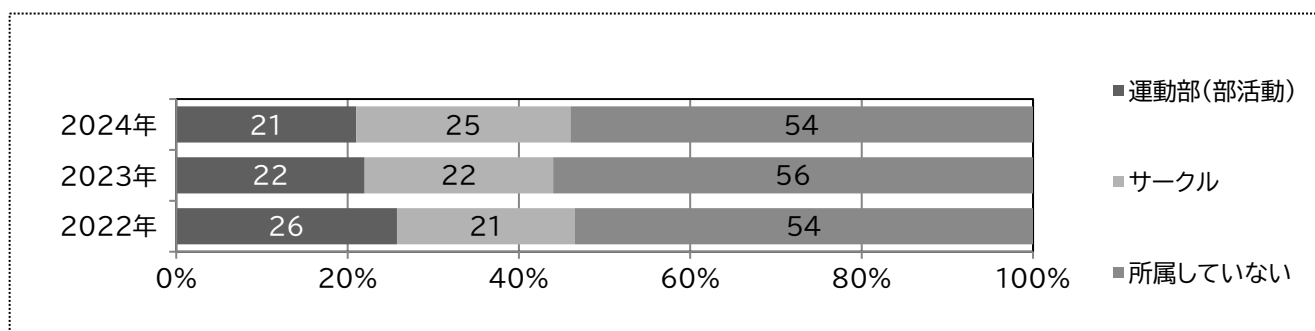


図14 課外活動（部活動・サークル活動）所属（2022年-2024年）

学部別の「運動部（部活動）」、「サークル」の所属割合（図15）を見ると、「運動部（部活動）」では、スポーツ科学部が50%と圧倒的に高く、次いで経済経営学部の17%、法学部の16%、心理学部の6%と続き、一番低い学部は、メディア情報学部の5%であった。

一方、「サークル」所属割合では、心理学部の39%が最も高く、次いでメディア情報学部の36%、法学部の23%、経済経営学部の20%と続き、一番低い学部はスポーツ科学部の14%であった。

また、「運動部（部活動）」、「サークル」のどちらにも所属していない割合が一番高い学部は、経済経営学部の63%となっている。

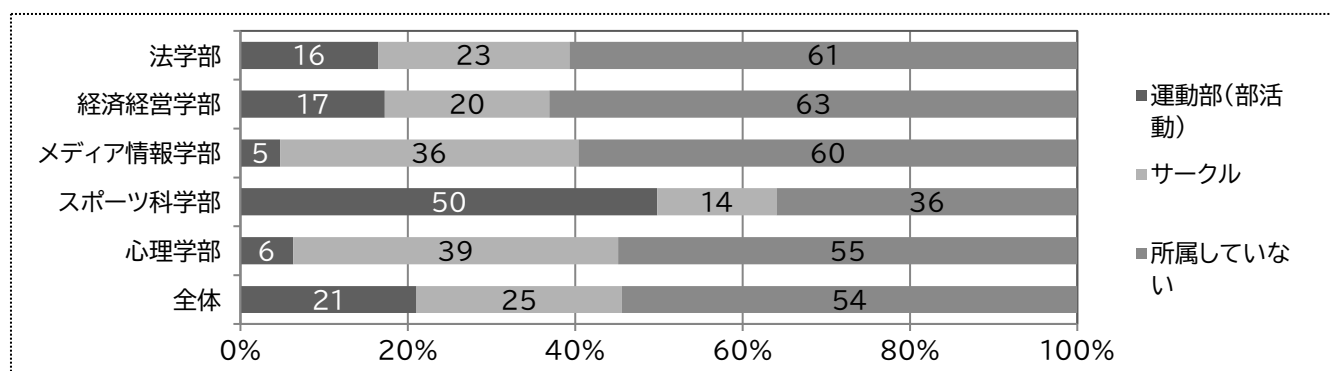


図15 課外活動（部活動・サークル活動）所属（2024年・学部別）

学年別で2024年の「運動部（部活動）」、「サークル」の所属割合（図16）を見ると、どちらにも所属していない割合が3年次で54%、4年次では67%と高くなっている。特に、4年次は、入学後にコロナ禍の影響が残り、課外活動にも制限があったことが影響していることが見て取れる結果となった。

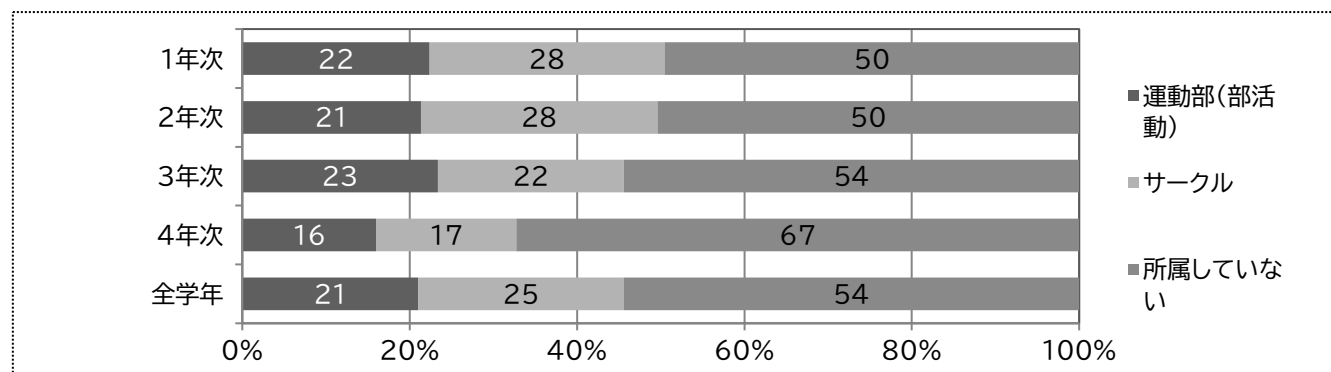


図16 課外活動（部活動・サークル活動）所属（2024年・学年別）

5. スクールバスの満足度について

スクールバスへの満足度（図 17）について、2024 年では「満足している」が 22%、「まあ満足している」が 20%であった。

なお、「満足している」割合は、2020 年は 34%、2021 年は 29%、2022 年 17%、2023 年 16%と減少傾向にあったが、2024 年度は 2023 年度と比較して 6%程割合が高くなっている。2023 年から 2024 年への好転については、2023 年のバスダイヤの大幅改編の混乱に鑑みると、まだ要望などはあるものの（「11. 意見要望について」）混乱は収束方向に向かっている、または混乱期を経験していない 1 年次の意見が反映されたものと推測される。

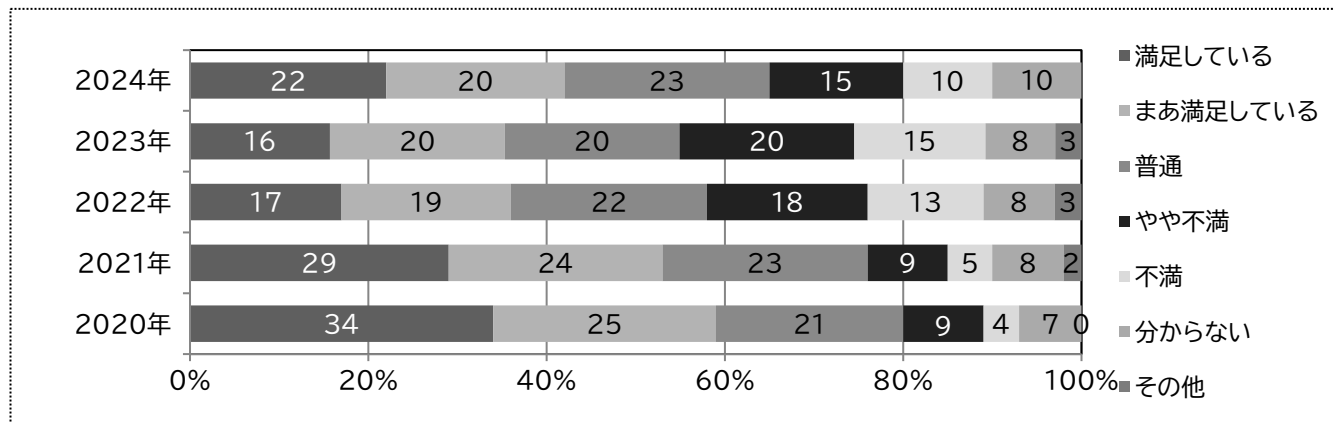


図 17 スクールバス満足度（2020-2024 年）

6. 喫煙について

電子たばこ含む喫煙有無（図 18）では、2024 年は「はい」と回答した割合は 12%であり、2021 年以降増加傾向にある。

電子タバコは紙巻きタバコより有害物質が少ないと言われていることもある程度影響しているものと推測される。

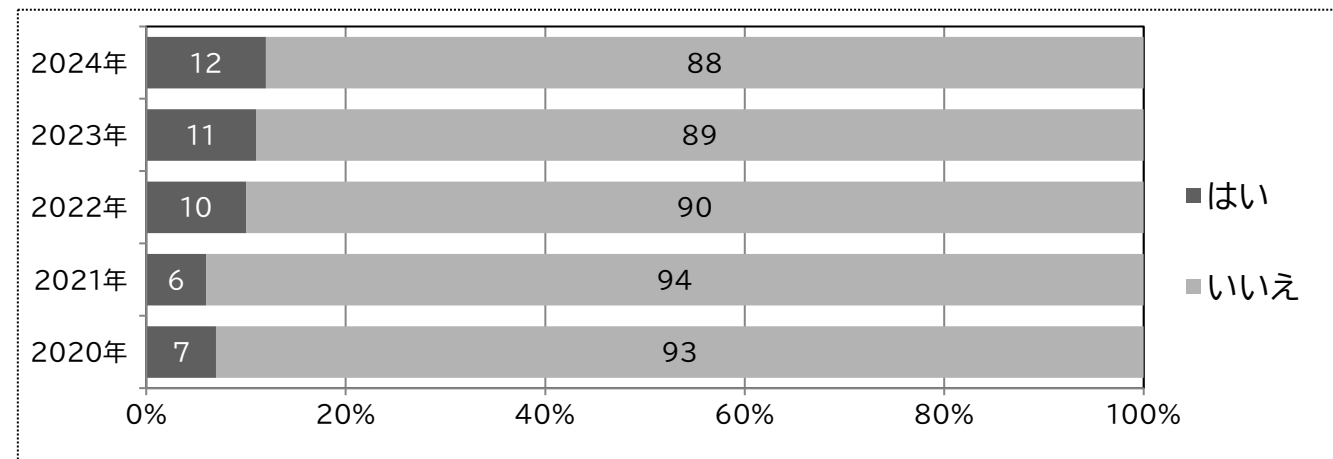


図 18 喫煙有無（2020-2024 年）

7. 学生生活や健康面などでの不安

学生生活や健康面での不安があるか（図 19）について、2024 年では「はい」と回答した割合は 13%であった。2020 年以降、2020 年が 17%、2021 年が 11%、2022 年が 9%と減少傾向が続いていたが、2023 年以降増加傾向にある。

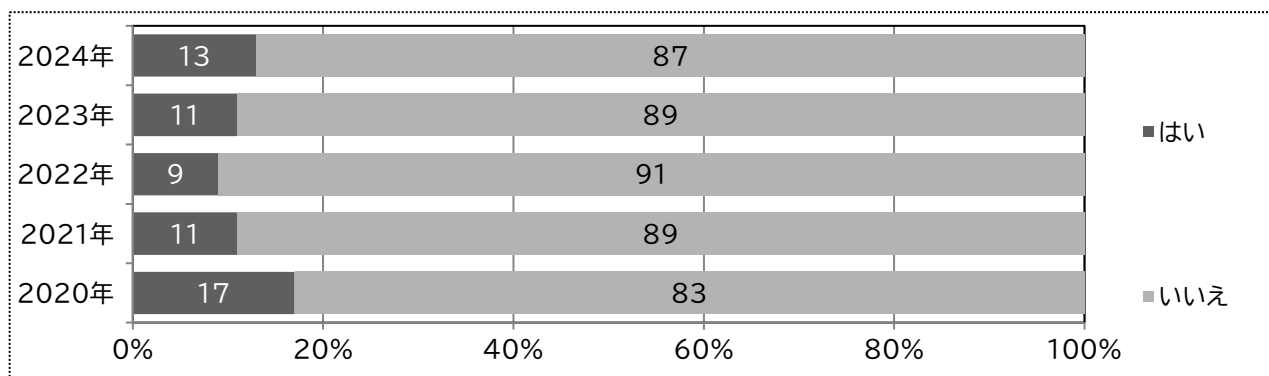


図 19 学生生活や健康面での不安（20201－2024 年）

2024 年の学年別（図 20）では、「はい」と回答した割合は、1 年次と 2 年次が 14%、3 年次が 12%、4 年次が 8%となっており、1 年次と 2 年次の割合が高い結果となっている。

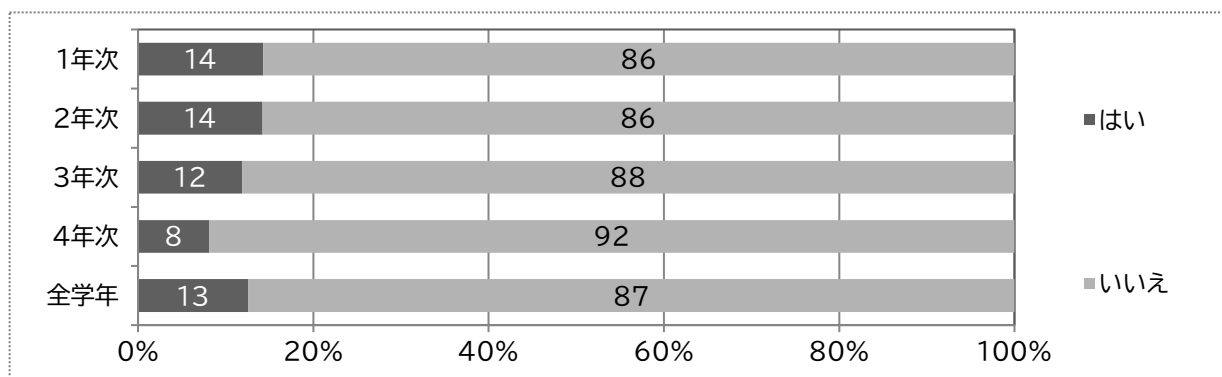


図 20 学生生活や健康面での不安（2024 年・学年別）

2024 年の学部別（図 21）で見ると、「はい」と回答した割合は、スポーツ科学部が最も低く 9%、次いで法学部、経済経営学部が 10%、心理学部が 17%となっており、メディア情報学部の 19%が高い割合となっている。

なお、具体的な不安の中身として、自由記述では 51 件の回答があった。主な内容は、「健康面（病気、身体の不調、睡眠など）や精神面・心理的なもの」と思われる回答が 22 件、「学修面（授業、単位、卒業など）や就職」と思われるものが 12 件、「人間関係（友人がいないなど）」と思われるものが 2 件、その他が 15 件あった。中には「人間関係」の不安により、体調面にも影響がでている不安を挙げる学生も見られた。

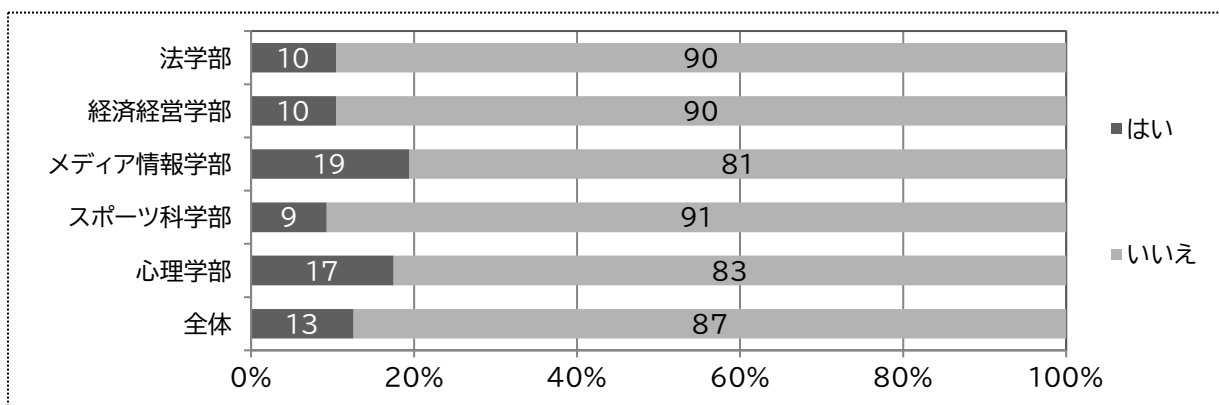


図 21 学生生活や健康面での不安（2024 年・学部別）

また、関連した設問として「悩みごとを相談できる友人がいるか」(図 22-1)では、「いない」と回答した割合が、2022 年は 16%だったが、2024 年は 14%に減少している。通常の学生生活が戻り、全体としては学生間のコミュニケーションが活発になりつつあることが推測できる結果となった。

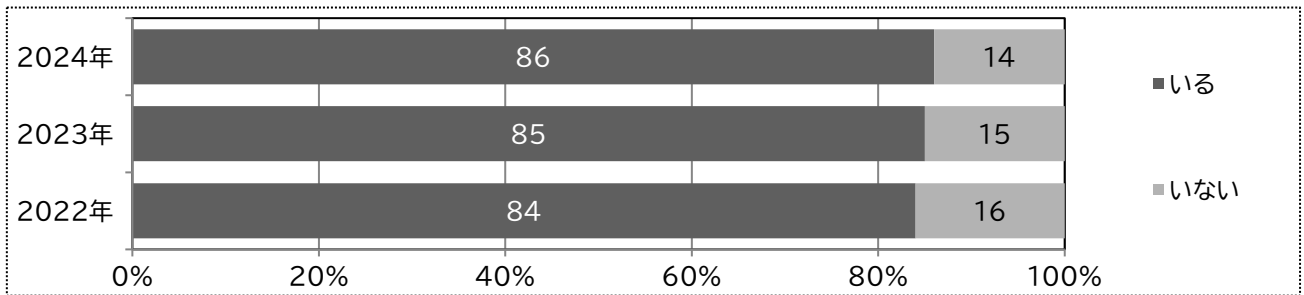


図 22-1 悩みごとを相談できる友人 (2022-2024 年)

学年別の「悩みごとを相談できる友人がいるか」(図 22-2)では、学年が進行するごとに3年次までは「いない」の割合が減少しているが、4年次生は増加している。

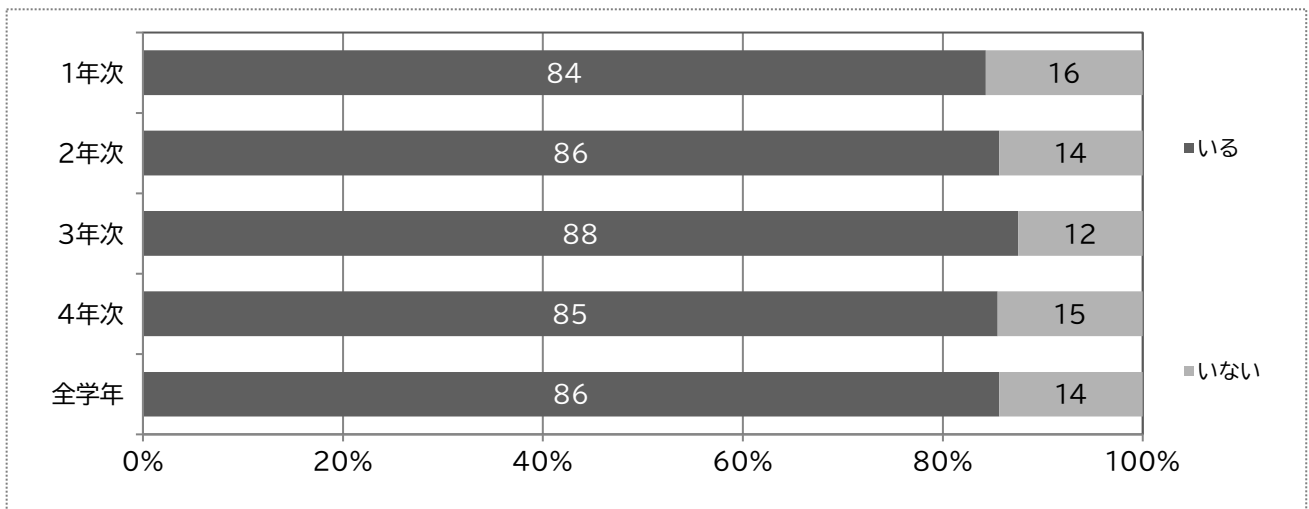


図 22-2 悩みごとを相談できる友人 (2024 年・学年別)

学部別の「悩みごとを相談できる友人がいるか」(図 22-3)では、「いない」の割合が最も低い学部がスポーツ科学部の 9%、最も高い学部がメディア情報学部の 17%という結果になっている。

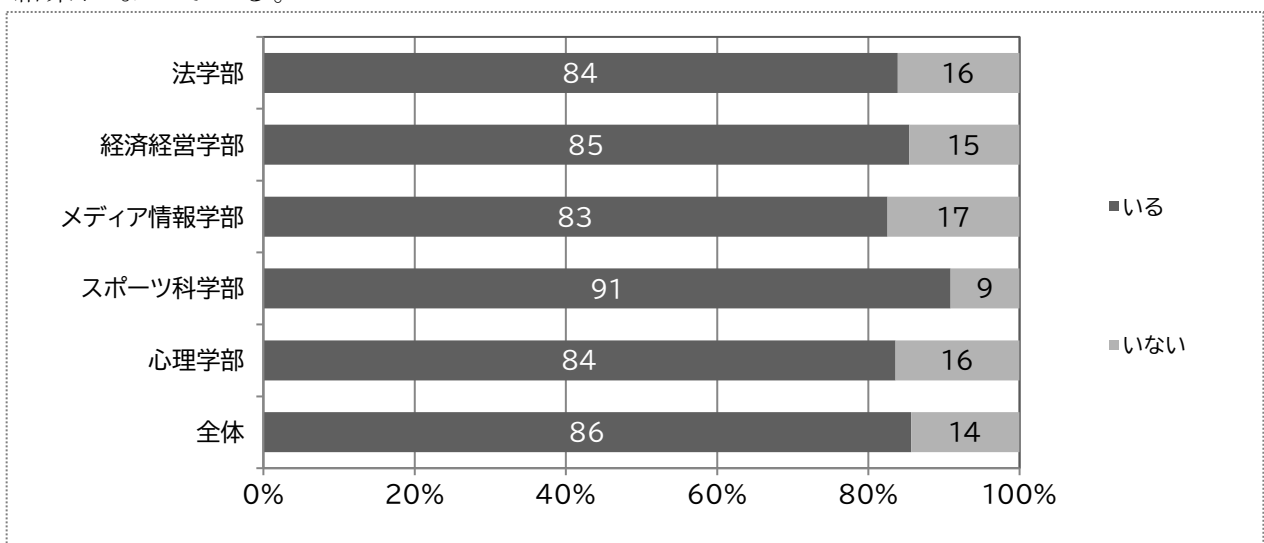


図 22-3 悩みごとを相談できる友人 (2024 年・学部別)

8. 学修面以外での学生生活満足度について

2024年の学修面以外での学生生活満足度（図23）では、満足している割合（「とても満足している」「満足している」）が60%と、2023年の44%、2022年の41%と比べても高い割合となっている。

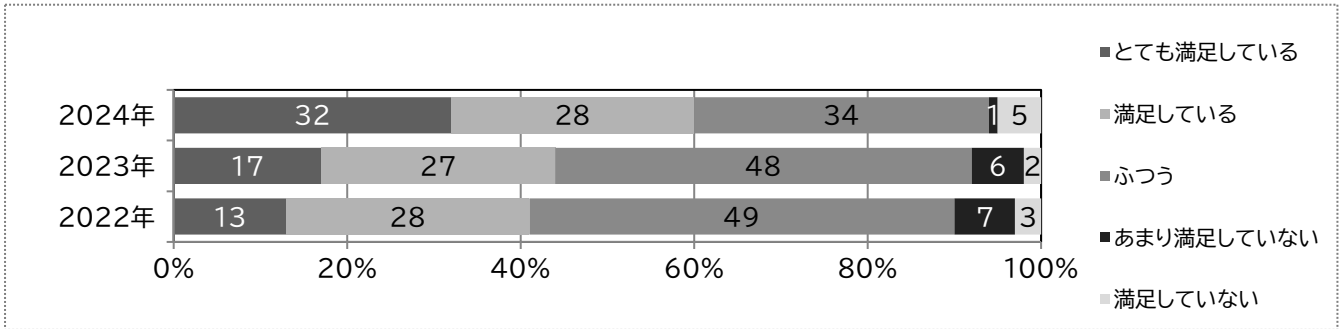


図23 学修面以外での学生生活満足度（2022年-2024年）

学年別の学修面以外での学生生活満足度（図24）では、満足している割合（「とても満足している」「満足している」）が、1年次が55%、2年次が59%、3年次が61%、4年次が68%と学年が進行するごとに高い割合となっている。

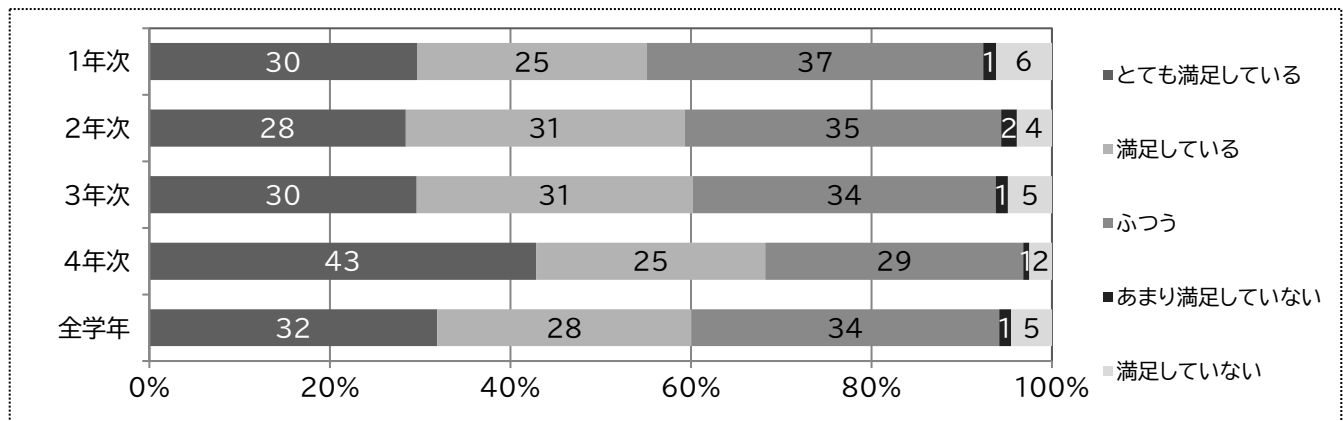


図24 学修面以外での学生生活満足度（2024年・学年別）

学部別の学修面以外での学生生活満足度（図25）では、満足している割合（「とても満足している」「満足している」）が、心理学部の67%が最も高い割合となっており、次いでスポーツ科学部の61%となっている。

「とても満足している」と回答した割合だけを見ると、スポーツ科学部の35%が一番高い割合となっており、メディア情報学部の26%がと一番低い割合となっている。このことは、学部別の「運動部（部活動）」、「サークル」の所属割合（図15）の結果とも相関性が見受けられる。

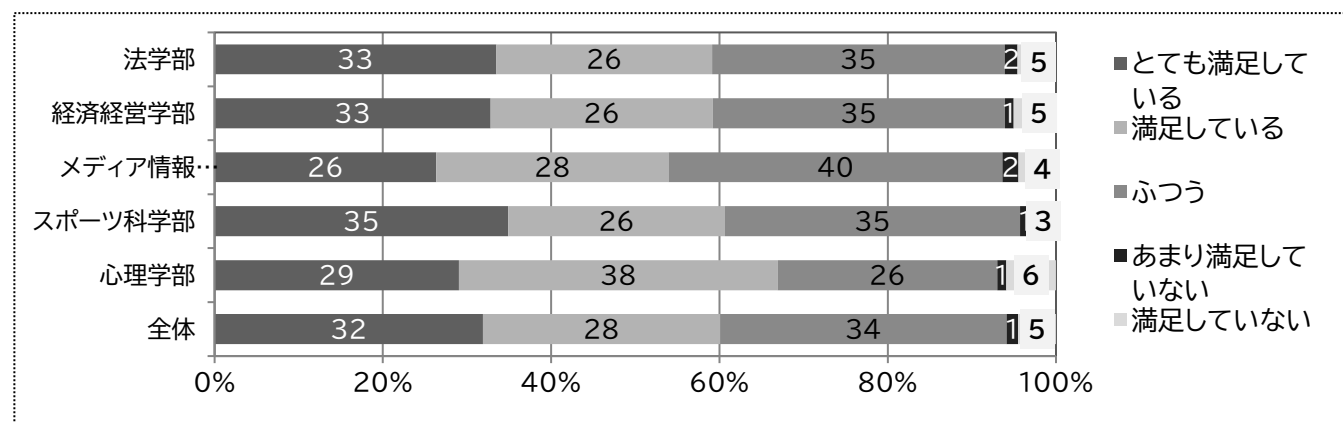


図25 学修面以外での学生生活満足度（2024年・学部別）

9. 大学施設やサービスの満足度について

2024年の大学施設やサービスの満足度（図26）では、満足している割合が一番高いのは「利用可能PCやインターネット環境」の43%で、次いで「図書館・メディアセンター」の40%であり、2023年、2022年の結果と同様、メディアセンターの施設環境に満足している学生が多いと見てとれる結果とも言える。

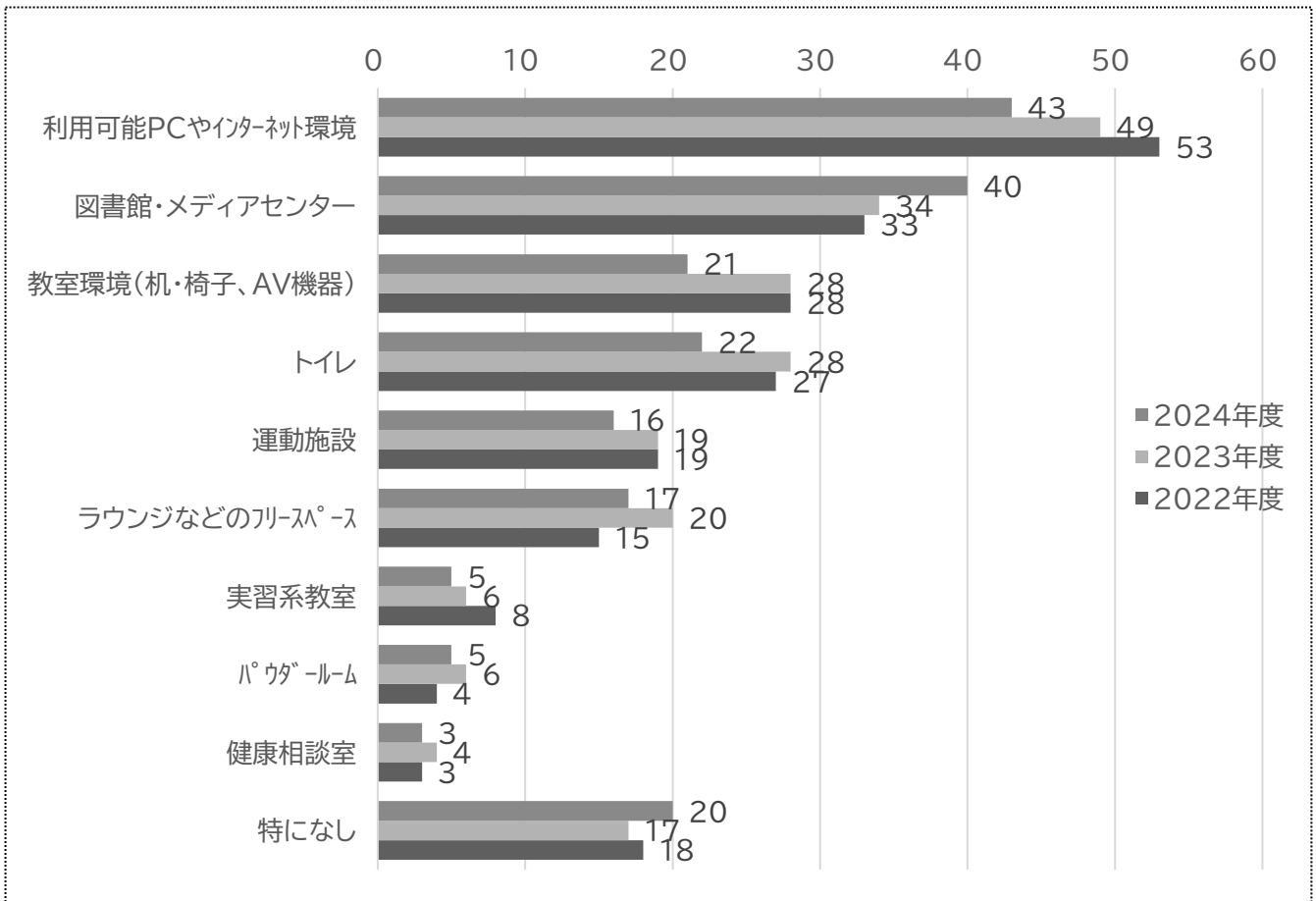


図26 大学施設やサービスの満足度（複数回答、単位：％、2022年-2024年）

10. 大学への愛着度：駿河台大学への入学のすすめ

駿河台大学入学を周囲の人にすすめてほしいか（図27）については、2024年は、すすめる（「強くすすめてほしい」「すすめてほしい」）が24%、「すすめてくれない」は20%であった。

また、「わからない」と回答した割合が56%となっており、2020年以降最も高い割合となった。

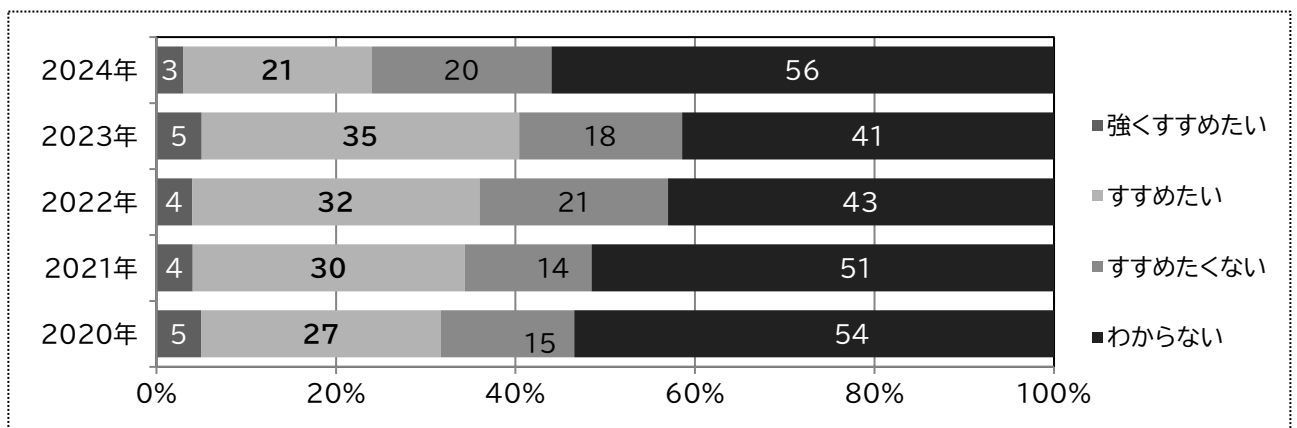


図27 駿河台大学入学をすすめてほしいか（2020-2024年）

学部別（図 28）では、すすめる（「強くすすめたい」「すすめたい」）の割合が、心理学部が 27% と一番高く、次いで法学部・メディア情報学部の 26%、経済経営学部の 24%、スポーツ科学部の 19% であった。

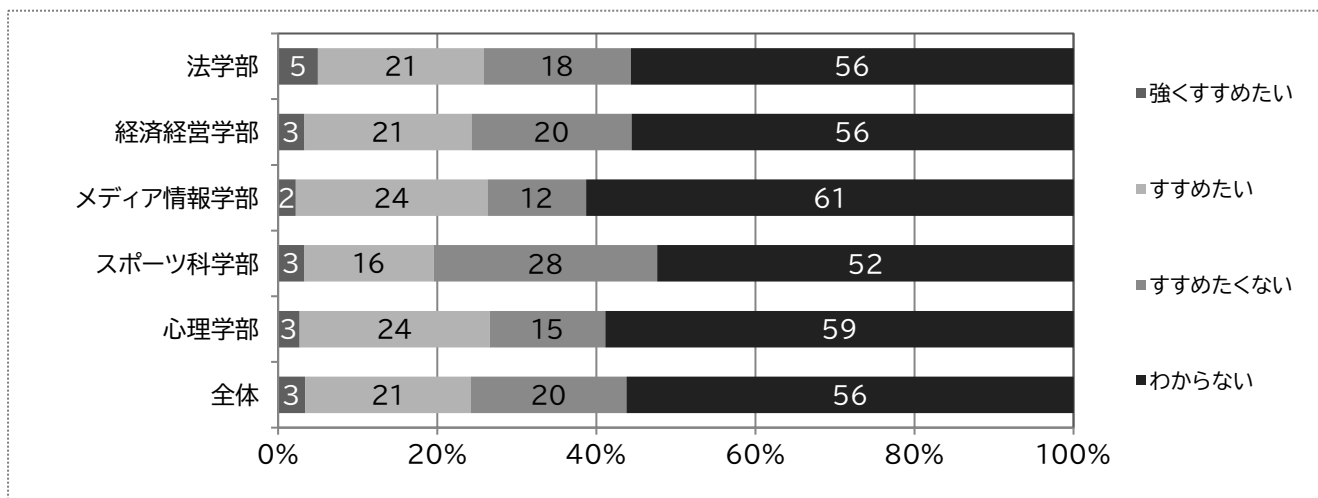


図 28 駿河台大学入学をすすめたいか（2024 年・学部別）

11. 意見要望について

設問項目の最後に、より良い修学環境整備のために自由記述で問うた「意見要望について」では、特になしと記載があったものを除き、502 人から意見要望があった。中には一人で複数の意見要望を出している学生もいたが、その内、圧倒的にスクールバスに関連するものが多く 268 件であった。その他、施設設備や修学環境（トイレや教室の机・椅子・空調、スポーツ施設、喫煙所など）に関するもの、通信環境（Wi-Fi やインターネット環境）に関するもの、学食に関する意見が見受けられた。

また、少数ではあるが学内のキャッシュレス化、充電コンセントの増設、マウスの貸し出し、フリースペース・ソファの増設、仮眠スペースの設置など、より快適な学生生活を求める意見も見受けられた。

スクールバスに関しては、スクールバスへの満足度（図 17）で示すとおり、2024 年は 2023 年より好転している一方、意見要望等の自由記述では、飯能便や金子便のダイヤ（本数）に関する意見要望が多数見受けられた。これは、大学と飯能駅及び金子駅を結ぶルート上の阿須ガード拡幅工事により、2023 年 9 月 11 日以降、スクールバス運行体制を大幅に見直していることからと推測される。

なお、昨今の燃料費高騰や自動車運転者の労働時間等の基準改正による、いわゆる「2024 年問題」による運転士不足の深刻化など、現下を取り巻く環境の変化も重なっている中で、東飯能便の新設や現在の飯能便の運行状況なども踏まえ 2025 年度のスクールバス運行体制を検討した結果、今後も無料を前提としたスクールバス運行の継続により、学生の通学に支障が出ない運行体制を維持していくため、飯能便については、2024 年度末をもって廃止することをホームページで公表したことも影響していると考えられる。

今後もスクールバス運行可能台数やドライバー人員など様々な事情や制約等もある中においても、いかに学生の利便性に配慮した運行体制を維持できるかを検討していくことが望まれる。

12. まとめ

2024年度の「学生生活基本調査」実施に向け、前年度に調査時期や調査方法、設問項目を再精査することが課題となっていたここともあり、前年度までのC-learningからGoogleフォームに回答方法を変更して実施した。また、CA制度を活用し、1年次ゼミを訪問した際に調査回答を促すなどした取り組みもあり（1年次回答率72.0%、2年次63.7%、3年次50.4%、4年次生39.2%）、全体の回答率が2023年の39.9%から55.4%に好転し、より多くの学生生活の実態や意見要望を知ることができた。最も回答率の低かった4年次生については、「卒業時ふりかえりアンケート」の結果も踏まえ、在学時の満足度などを検証していきたい。

今回の調査結果における学生生活の実態について、大学内で共有を図っていくことはもちろんのこと、学生からの様々な意見や要望などを真摯に受け止め、引き続き、大学全体で学生生活の満足度向上や施設・設備の改善などに努めていくことが望まれる。

以 上